

## 調 査 内 容

I	調 査 地	宮城県柴田町（人口 36,972 人※R4. 12. 31 現在 面積 54.03 km <sup>2</sup> ）
	調 査 月 日	令和 5 年 1 0 月 1 1 日（水）
	調 査 事 件	議会における I C T の活用について
概 要		<p><b>(1) 柴田町議会における I C T 活用の現状について</b>          きっかけは、東日本大震災で情報遮断状態となり、安否確認が困難な事態が発生したことに起因する。その経験からタブレットの導入を検討した。</p> <p>① 議会の機能強化として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを導入する狙いとして、議員と議会事務局がグーグルカレンダーを利用してスケジュール管理を行うなど、スムーズな情報の交換が可能となる。</li> <li>・庁舎の外でもタブレットを活用することで、議会活動や議員活動の活性化につながる。</li> <li>・資料をデータ化することによって、いつでも資料が閲覧可能となる。</li> </ul> <p>② 事務の効率化と事務コストの削減として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループウェアを導入することで、議員と議会事務局間の資料配布や連絡事務の効率化が図られる。</li> <li>・ペーパーレス会議システムの導入により、資料印刷等のコスト削減につながる。</li> </ul> <p><b>(2) ペーパーレス化にあたり配慮した点、苦慮した点について</b>          タブレット端末導入時には扱いが苦手な議員もいたことから、紙と併用していたが、改選後を区切りとして、完全ペーパーレス化となった。予算書や決算書はページ数が多いため冊子でも配布している。</p> <p><b>(3) タブレットへのアプリのインストールについて</b>          基本的には入れておらず、議員活動や政務に必要とされるものだけのインストールになっている。現在認めているのは、Y o u t u b e、議会のプリンター用印刷アプリ、z o o mのみとなっている。</p> <p><b>(4) オンライン会議の開催について</b>          コロナ禍でも止めない議会運営として、委員会などのオンライン開催のほか、町民対象の一般座談会をオンラインで開催するなど、議会内にとどまらずオンライン会議を活用している。</p> <p><b>(5) 議会としてのグループウェアの導入について</b>          チャットやメールなどをコミュニケーションツールとして活用し、共有されたスケジュール管理など、効率化が進んでいる。また、自宅 P C やスマホを紐づけさせることで外出時や緊急時にも連絡が可能となっている。</p>
		柴田町議会では、タブレットの導入後に、いち早くペーパーレス化に取り組み、操作が苦手な議員にはプロジェクトチームのメンバーによる手厚

	委員会の まとめ	<p>いサポートを行い、事務局職員もバックアップを行っている。</p> <p>タブレット導入のねらいとして、議会の機能強化や業務の効率化、事務コストの削減を進め、デジタルツールを活用した情報発信にも熱心に取り組んでいる。そのことにより、「議会改革度調査ランキング 2022」では、総合で8位、また、機能強化部門では全国1位となっている。</p> <p>特に今回は、ICT化推進の部分に特化しての調査であったが、議会改革の一環として議員の理解、そして災害やコロナ禍でも止めない議会運営を掲げ、zoom会議システムでの新たな懇談会の手法も進めている。</p> <p>岩沼市議会においても、既に導入して2年を迎えるタブレット端末のさらなる有効活用について、各議員がツールとして当たり前を使いこなせることを目指し、貸与されている端末をフル活用できるよう認識を持つことが大切だと思う。改選後は、より一層ペーパーレス化を進め、議員間の情報伝達手段としても使いこなせるよう、柴田町議会の先進的な取組をさらに深め生かすべきと考える。</p>
II	調査地	宮城県登米市（人口 74,795 人※R4. 12. 31 現在 面積 536. 38 km <sup>2</sup> ）
	調査月日	令和5年10月11日（水）
	調査事件	議会におけるICTの活用について
	概要	<p>(1) 登米市議会ICT推進方針及び現状について</p> <p>令和3年度にICT推進検討会を立ち上げ、ICT推進方針の策定や活用行動の定着化、タブレット端末の活用提案などの検討を行い、令和4年度には、タブレットを活用したオンライン会議のワークショップや講習会などを実施し、推進を図った。そして、ICT推進検討委員会は、令和4年度にICT推進方針を策定して議会運営委員会に引き継ぎ、令和5年度はICT推進方針に沿ってタブレットの更新を行うこととしている。</p> <p>(2) ペーパーレス化にあたり配慮した点、苦慮した点について</p> <p>平成28年9月定期議会以降、委員会資料等も含めて格納している。すべての資料についてはPDFでタブレット端末に格納しているが、議案書、提案理由説明書、補正予算書以外は紙資料も配布し併用している。</p> <p>導入当初は、紙資料と電子データの併用とし、時期を定めてペーパーレス化へ移行する計画であったが、改選を挟み時間が経過するとともに計画通りに進まない状況となり、現在に至っている</p> <p>(3) タブレットへのアプリのインストールについて</p> <p>ペーパーレス会議システム「モアノート」のほか、文書作成、表計算、電子メール等を利用するため「マイクロソフト 365」をインストールし、令和5年度はLINEが追加となった。</p> <p>また、タブレット端末で 사용할 ことができるアプリケーションソフトは、議会運営委員会での協議による許可制としている。</p> <p>(4) オンライン会議の開催について</p> <p>令和4年度については、ICT推進検討会により、タブレットを活用</p>

		<p>したオンライン会議のワークショップを実施した。</p> <p>(5) 議会としてのグループウェアの導入について 特に検討はしていない。</p>
	<p>委員会の ま と め</p>	<p>登米市議会では、平成 28 年度という早い時期からタブレットを導入し、本市とは異なるシステムのモアノートを使用して運用が始まった。議会改革に熱心な議員が推進役を果たし、議会改革度ランキング全国 15 位になる時期などもあり、ICTの活用を積極的に取り入れながら議会運営を進めていた。</p> <p>一方で、苦手な議員への対応や日々進化する ICT 技術の変化等に対応していく苦勞も見受けられ、ICTの活用がなかなか進まない時期もあったようだ。そこで、令和 3 年に ICT 推進検討会を組織化し、現状と今後の取組を明確にしながら推進を続けている。</p> <p>岩沼市議会においては、タブレットを導入してまだ年数が浅いこともあり、今年 6 月にペーパーレス化の定例会を試行し、問題の把握を行った。その検証と合わせて、タブレットにアプリケーションソフトを導入して議会事務局と議員との連絡や通知、情報共有などの活用方法も検討し、改選後は、タブレット端末をより一層生かしながら、各議員の習熟度も異なることを考えながらのルール作りが必要と考える。</p>